

Course number		U-LAS04 20001 LJ45					
Course title (and course title in English)	偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights				Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Program-Specific Professor,SATOU TOORU	
						Part-time Lecturer,TOYOFUKU SEIJI	
						Part-time Lecturer,MAKINO MASAKO	
						Part-time Lecturer,OKUMOTO TAKEHIRO Graduate School of Medicine Associate Professor,KATOU TOSHIHIRO Institute for Research in Humanities Professor,TAKEZAWA YASUKO	
Group	Humanities and Social Sciences			Field(Classification)		Pedagogy, Psychology and Sociology(Issues)	
Language of instruction	Japanese			Old group	Group A		Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・First semester	
Days and periods	Mon.5		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは、大学として果たすべき重要な基本課題であるとの認識に立ち、本学学生に人権問題に関する概論を教授するため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講する。							
[Course objectives]							
講義を通じて社会における偏見と差別についての認識を深めると同時に、人権問題を自ら考える機会とする。							
[Course schedule and contents)]							
以下の5つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義を行う。							
<p>豊福誠二 現代社会における人権の問題(4/13, 20)</p> <p>本講座では、まず、弁護士である講師が「人権とは何であるか」について概説をする。その上で、近時みられる「ヘイト・スピーチ」の現状を紹介し、なぜこのような現象が発生するのか、どのような被害があるのか、法的規制はどうあるべきかについて考える。</p> <p>牧野雅子 ジェンダーに関する問題(4/27, 5/11, 18)</p> <p>ジェンダーに基づく暴力（Gender Based Violence: GBV）のひとつである性暴力を取り上げる。性暴力とは何か、性暴力はどのようにみなされてきたのか、被害を語りにくいのはなぜか等について、統計や資料を用いながら歴史を遡って解説し、性暴力を根絶するためには何が必要かをともに考える。</p> <p>奥本武裕 被差別部落に関する問題(5/25, 6/1, 8)</p> <p>部落差別は、同一の文化を有する人びとのなかで、些細な差異を拡大（あるいは差異を捏造）することで形成された、世界史的にみても稀な差別だといわれる。こうした差別の成立過程、自由・平等などの理念を基調とする現代社会になお残存している理由、問題解決の道筋について、歴史や現状のなかに分け入ることによって探っていきたい。</p>							
<div> <div></div> <div>Continue to 偏見・差別・人権(2)</div> </div>							

偏見・差別・人権(2)

加藤寿宏 障害(disability)に関する問題(6/15, 22, 29)
地域の学校に在籍する児童・生徒のうち発達障害（自閉症スペクトラム障害、限局性学習障害、注意欠如・多動性障害）の可能性のある者は、6.5%といわれている。しかし、発達障害と定型発達との境界は明確ではなく、スペクトラム（連続帯）であることから、診断がつかない者も含めると、その割合はかなり多く、発達障害はもっとも身近な障害であると言える。また、発達障害者の中には、優れた能力がある者も多く、大学や職場で出会う機会も多い。しかし、発達障害は目に見えない障害であるため、偏見・差別が生まれやすい。本講義では視聴覚教材等も活用し発達障害についての理解を深める。

竹沢泰子 外国人に関する問題(7/6, 13, 20)
京都には数多く住んでいる在日コリアンが暮らしている。彼らはどのような経緯で日本社会、そして京都に住むに至ったのか、帰化するか否かの選択の背景に何があるのか、ジェンダーによる違いは何かを考える。最終回は、「偏見」とはそもそも何なのか、「マイクロアグレッション」の概念を紹介して、身近で無意識の差別や偏見をなくすにはどうすればよいのかも、ともに考えたい。

コーディネーター：佐藤 亨 国際高等教育院特定教授

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート40点、定期試験60点）。
なお、8回以上の出席を定期試験の受験資格とする。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

講義内容の復習を行うこと。

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]